



<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」

Ver.2-018 号

同志社大学と「総合知」



今号は、私の感想からの導入にしたい。

- ・「総合知」を知ると「知識」の概念を革命的に変えねばならないようだ。
- ・インターネット環境になった現在、「物識り」は意味を失った。
- ・元々、断片的な知識で満足せず、統合して意味を創造しなければならない。
- ・更に「総合知」を学ぶと奥が深く、迷路に入り込みそうな恐怖感すら感じる。
- ・新しい元号に、革新的な「命題」が与えられた。
- ・「同志社ファン・レポート」の発行してきたことに感謝したい。

.....

『いま大学で勉強するということ』の第3章は「大学で作る「総合知」 —大学の意味を問い直す—」である。「総合知」については、次章・第4章の111頁と112頁に記載されている。そこには次のような発言があるが、紙面の制限等でか、説明が充分でない。

今号では、本書の核とも言える「総合知」についての調べ、参考情報をご報告する。

松岡学長の発言

- ・いろいろなものを自分で集めてくる能力、つまり「総合知」が非常に大切だ。
- ・「総合知」は学生自身がつくり出さねばならないが、その力に気づかせ、養っていく環境を大学が提供する、
- ・同志社は自由主義を謳っているから、自由に学び、自由に考える、そこから「総合知」が生まれると考えている。

佐藤優氏の発言

「博識に対立する総合知」という格言がある。断片的な知識は沢山あっても、それだけでは意味が無い。合わさって初めて意味が出てくる。など難解な解説が続く。

以前の佐藤優氏の発言

・ドイツ語で「科学」のことを「ヴィッセンシャフト (Wissenschaft)」と言います。

「ヴィッセン」は「知識」、「シャフト」は「体系を持っている全体性」。

これは中世では、「博識」と対立する「総合知」ということを意味した。細かい知識をたくさん持っていて、それが神様とつながる体系知につながっていなければ何の意味もないという考え方です。だからいわゆるオタクとかクイズ王のような人と学者とはどこが違うかという、体系知を身に付けているかどうかということなんですね。

出典：朝日新聞・WebRonz a：政治・国際 「文庫・新書」で知的体力を強化する！

[2]「教養」とは何か——合理性と科学性 (当時) 作家、元外務省主任分析官

.....

「総合知」の理解のために

1. 総合知学会

「総合知」は、あまり聞き慣れない用語ですが、既に20年前から学会がある。そのサイトから要約した。 < 全文は <http://www.sougouchi.org/blog/> を参照下さい。 >

.....

総合知学会の設立は1998年。

目的は、①知の根本問題の探求、②各種知の総合、すなわちその再創造・再組織化に関する研究を進めること。

会長は小松昭英氏 (ものづくり APS 推進機構主任研究員、財団法人製造科学技術センター学術会員)

学会憲章は2017年3月17日に制定。

現状認識：今や、資源の枯渇、地球の温暖、環境汚染などの諸問題を抱えている。我が国の経済力の相対的地位の低下が著しく、その存亡の危機を迎えている。

対応策：人間の排除や人間の機械部品化に抗して、全人間的存在を取り戻す。持続可能な社会を実現する多面的思考と多元的総合が求められている。

提言：総合知学会は①文系知と理系知を論理的に統合、②芸術、技術、工術 (エンジニアリング) と学術を網羅する総合知の研究をしつつ、当面する社会的な課題の解決策も提言していく。そして、総合知の研究成果と課題解決の提言をともに公開し、社会の人々との意見交換を通じて、研究成果と提言をともに検証していきたい。

.....

2. 東京大学特任教授 原島 博氏の「総合知」についての解説

<http://harashima-lab.jp/twitter/2014/03/15/2014-03-09-03-15/>

・大学も含めてほとんどの高等教育研究機関は、それぞれの専門に分かれている。科学も「科の学」として発展してきた。そのような専門知に対して、いま総合知の重要性が叫ばれている。僕もそれを主張してきた。なぜ、総合知なのだろう。そもそも総合知とは何なのだろう。

なぜ総合知なのだろう。科学の対象が複雑になってきたからだ。例えば、環境問題や社会の安全・安心など、最近の課題は、従来の専門知の組み合わせでは解決できない。かつての天体力学のように変数が少ないときは専門知だけでよかった。**変数が多くなると、総合知が必要とされる。**

なぜ総合知なのだろう。目標の体系が見えにくくなったからだ。かつては大目標（最終目標）と小目標（それぞれの専門の目標）の関係が明確であった。小目標だけを追求すれば、それが例えば人類の幸福という大目標に結びついた。**いまは違う。矛盾がでてきた。全体を見ることが必要になった。**

総合知は、全体を俯瞰し、その構造を見いだして総合的な判断を可能にする知である。その意味では**<総合知は俯瞰知>**である。全体を俯瞰することによって初めて見えてくるものがある。それぞれの専門知をそこに位置づけて、それらを**新たな観点から見直す**こともできる。

<総合知は関係知>である。それぞれ個別の対象ではなくて、むしろそれらの関係を問題にする。関係は組み合わせの数だけあるから膨大だけれども、その関係にも法則がある。科学はいま、個別の学から**「関係の学」へと発展**しようとしている。

<総合知は学際知>である。それぞれの専門分野のさらなる深化を図ることも重要であるが、異分野に接することによって得られる刺激が、**学問を質的に大きく飛躍させる**。視界も開けてくる。井の中の蛙になってはいけない。

<総合知は開放知>である。異なる専門分野、さらには非専門家にも開放する。それによって初めて**総合的な視野を確保する**ことができる。非専門家までも広げたさまざ

まな多様性の中から、新たな展開が可能になる。その意味では総合知は、＜ロングテール的な集合知＞でもある。■